



# 学校だより

佐渡市立両津吉井小学校

令和5年7月3日

<7月号>



ホームページ  
QRコード

## 自己有用感をもてる子どもに

校長 後藤 修治

7月に入り、1学期も残り約3週間、子どもたちは、楽しみにしている夏休みに向け、学習や生活のまとめをがんばっています。先週は、学習参観に多くの保護者の皆様からご来校いただきまして、ありがとうございました。1年生は入学してから、そして2～6年生は進級して3カ月がたちました。お子さんの様子はいかがでしたでしょうか。いろいろな学習や体験活動、行事を通してこの3カ月でまた成長した姿がご覧いただけたのではないかと思います。

先月23日、人間関係づくり、他者理解に関する学習を全校集会（縦割り班）として行いました。まず、「心ほぐし」として仲間（グループ）づくりゲームやピンポン球運びリレーを楽しみました。子どもたちからは、グループを作るために誘い合ったり、リレーで「がんばれー。」と応援したりする姿が見られました。

次に、フルーツバスケット形式で、自分の得意なこと、苦手なことを紹介する活動を行いました。得意なことを紹介した人には「〇〇さん、いいね!」、苦手なことを紹介した人には、「〇〇さん、ファイト!」と声かけをしました。褒めたり、励ましたりする言葉がけに、どの子も嬉しそうに、または、照れくさそうにしていました。拍手や肯定的な言葉がけを互いに行うことで、温かい雰囲気の中で活動を行うことができました。



【みんなの得意・苦手はなんだ?】

この全校集会は、子どもたちの社会力（社会性）を高めるために1学期と2学期に各1回実施しているものです。特に、自己有用感を高めることを目的としています。自己有用感とは、「集団の中で自分が役に立っている」「自分に関心をもってくれている」と感じる感情のことで、子どもの成長の鍵を握る重要な感情の一つです。

この自己有用感という感情は、小学校段階で効果的に身に付けることができ、「異年齢交流」が特に効果が大きいとされています。上学年は下学年のお世話をしたりお手本を見せたりすることで、「お世話して喜ばれた」「役に立ってよかった」と思えるようになります。下学年は上学年に対して「遊んでもらって楽しかった」「自分もああなりたい」と思うことで、徐々に人の役に立つということを意識するようになります。自己有用感が高まると、積極性や思いやりの心も育ちます。

各学年においても、自己有用感を高めるために友だちのよさを見付けたり、頑張りを賞賛したりする取組をしています。終学活では、一日を振り返り、友だちからしてもらってうれしかったことや友だちの頑張りを発表し合っています。

また、学校外や家庭においても自己有用感を高めるために、お手伝いなど家庭内で役割を与えたり、親子で奉仕作業に参加したり、日頃から言葉やスキンシップで愛情を示したりすることがよいとされています。ぜひとも学校と家庭で連携して子どもたちの自己有用感を高めていきましょう。